

平成28年度 南信地区学校図書館教育研究大会を終えて

下伊那支部代表 平谷村立平谷小学校 伊東 秀

「学びを広げる、心をはぐくむ学校図書館」をテーマに、平成28年度 南信地区学校図書館教育研究大会を開催しました。当日は180余名の方々にご参加いただき、4つの分科会と講演会を通して、読書の大切さや図書館の重要性を共有する機会となりました。

下條小学校と下條中学校の分科会では、図書館を活用した授業公開と授業研究会を行いました。教科学習において調査・発展のために図書資料の活用に努めたり、紹介本を介してクラスの間関係を育んだりしてきた成果が、子どもたちの姿に現れていました。下條村図書館司書の近藤明子さんからは、地域とともにある公共図書館として、「小・中学校との連携の実際」について、読書ボランティアの活動の様子などを織り交ぜながらご発表いただきました。また、東京学芸大学附属小金井小学校司書の中山美由紀さんからは、学校図書館を使った授業活用について、様々な実例を元にご指導いただきました。

分科会後に行われた講演会では、ノートルダム清心女子大学名誉教授・脇明子さんから、『読む力は生きる力』をテーマにご講演いただきました。脇さんはご著書の中で、子どもと関わる現場の人間を温かく、力強く励まし続けてくださっていますが、講演でも、読書することの意味や子どもたちに手渡したい本について、力強く語りかけて下さいました。質のよい読書、質のよい物語を心深く味わう体験が大切であること、読書は子どもたちの「生きる力」を育ててくれることを、再認識いたしました。

大会の開催にあたり、大変なご支援とご協力を賜りました下條村教育委員会ならびに下條村の皆様に深く感謝申し上げます。

南信地区学校図書館教育研究会に参加して

飯田市立高陵中学校 青木 蘭奈

「中学生を主人公にし、その葛藤や成長を題材にしている優れた文学作品が、日本には少ない。」

脇明子氏が講演会でお話くださったことのひとつです。国語科教諭として、司書教諭として、いわゆるライトノベルを手に取り、「読書」をしている生徒の姿をもの寂しく感じていた私には、とても鮮烈なお話でした。自身の不勉強を恥じるばかりですが、「身になる読書」という視点で様々なお話をお聞きし、生徒の姿と重ね合わせていたく納得しました。

一方で、下條中学校での宮川先生の授業には、本を手し、その魅力を熱心にクラスの仲間に伝えようとする姿がありました。自分の選んだ一冊について、仲間への語り方を考え、未知の本のおもしろさが損なわれないよう質問に答え……。本を読みこなしていないとできないことだなと感じました。また、その紹介に耳を傾ける生徒の興味津々といった柔らかな表情も、印象的でした。

今回、この研究会に参加させていただいたことで、生徒は本との出会いを楽しみたいと思っていること、本を読み味わう素地をもっていることとを、再確認いたしました。日頃、生徒から、「何かおもしろい本はありませんか。」と質問されることが少なくありません。また、生徒同士でおもしろかった本を薦め合う様子もあります。彼らが豊かな読書生活を送るための第一歩として、すてきな本に出会う方法を考え、実践していきたいと思えます。